

あわ発見伝

DISCOVER AWA-STYLES

9月14日(金)～16日(日)

会場 阿南市文化会館 夢ホール

問い合わせは

第27回国民文化祭阿南市実行委員会事務局

情報文化センター内(☎44-5000)へ

- 演奏 全国邦楽合奏フェスティバル
合同曲『童夢』／フィナーレ『巨火』
- 演奏・ワークショップ
音響を使用する邦楽ワークショップと癒し音楽
「指揮!実験室」ワークショップ
「尺八ソロワンポイントアドバイス」ワークショップ
箏マエストロによる青少年のための
「ワークショップ」と響演「変絃自在」
- 講演 ミニ講演『邦楽と宇宙』
「未来邦楽へ」パネルディスカッション
- 展示 故・三木 稔氏の軌跡、「宇宙箏」展示、遊びながら
邦楽を知る、和楽器体験・楽器製作実演

国文祭を楽しもう! 「和楽器体験・楽器製作実演」 触って、見て、聴いて、感じよう!

日本の楽器に自由に触れることができ、楽器製作工程の一部が見られます。

日本の楽器といえば、箏、三味線、尺八、琵琶、雅楽器などさまざまあります。それらが育まれてきた世界はそれぞれ異なりますが、今、それらはジャンルを超えて交流し、新たな音楽が生まれ、さらに洋楽器とのセッションも盛んで、海外からの招聘も活発に行われています。今回は、そういった楽器に触れていただきます。

優雅に演奏しているように見えますが、実際は絃が強く張られていて意外に体力がいる箏、鳴らしてみると心地よいノイズが聞こえる三味線や琵琶、コツさえ分かればすんなり音が鳴る尺



17本の竹を並べた箏を吹く体験コーナー。



桑の木で作られた薩摩琵琶の体験コーナー。

八、吹いても吸っても鳴る笙: 実際には触れてみると、見ていただけではわからない発見がいっぱいです。
楽器の製作実演コーナーでは、箏、三味線の製作工程の一部と、鼓の皮張りをご覧いただけます。

箏の素材は桐の木。なかでも会津桐が高級とされています。原木をどのように切断すれば、箏の表面に渦が巻いたような木目や、真っすぐ縦に並んだ木目が出るのか。さらに箏の内側はどのように彫られているのか、どの部分の作りで響きが変化するのかなど、職人が説明します。

三味線の素材は、胴が花梨で、棹は奏者にもっとも好まれるのが堅い紅木

です。花梨はタイやミャンマーから、紅木はインドから輸入しています。バチに使用される象牙やべつ甲は、現在、ワシントン条約などで輸入できないため、以前、輸入されたものを使っているのが現状です。

皮は長唄、地歌、津軽三味線などジャンルによって異なり、猫の原皮は台湾から、犬はタイから輸入しており、その皮張り作業も予定しています。

鼓の素材は胴が桜の木で、皮が馬です。胴の内側の彫り方「かな目」は作者の系統によって異なり、古いものは荒く、時代の流れとともに繊細になってきます。また古い胴の内側には漆が塗られています。それらを見比べ、さらに、馬のどの部位の皮が一番よく響くのかなどのお話を交えながら、皮張りの実演をします。プロの奏者もまず目にするのができないこのチャンネルをお見逃しなく!



三味線を製作する様子。

※写真はすべて「日本の音フェスティバル」より